キャラクター名
ラス子

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ ソラリス	ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	UGN支部長
オプショナル	ウロボロス	年齢	不明	性別	両性
覚醒	憤怒	衝動	解放	初期侵食率	43 %
出自	人類への興味	経験	殺戮の日々	邂逅	秘密:黒須左京都

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	1	0			1
感覚	3	0	0			3
精神	2	0	0			2
社会	3	0	0			3

HP	24
行動値	11
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	6	1	意志	3	2	調達	6	
運転：			芸術：			知識：ﾚﾈｹﾞｲﾄﾞ	2		情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
				+3	

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品	
使用人	
Lカスタマイズ:ブランケット	
サーチレーダー	
コネ:黒須左京都	
デモンズシード	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
起源種	P	N		
REC:黒須左京都	P 庇護	N 憐憫		
マスターレイス06	P 好奇心	N 脅威		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 18	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
ﾋｭｰﾏﾝｽﾞﾈｲﾊﾞｰ	1	+5	常時					
効果： 衝動判定ダイス+Lv個								
オリジンプラント	2	2	ﾏｲﾅｰ	至近	自身			
効果： ｼｰﾝ間感覚の判定達成値+[Lv*2]								
攻撃誘導	3	4	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	視界	単体			
効果： if草を攻撃対象に含めない(判定ダイス-[Lv*2],)								
ショウタイム	4	4	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	視界	単体			
効果： if草を攻撃対象に含めない(判定ダイス-[Lv+1],)								
原初の黄色:灰色の庭	2	2	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	視界	単体			
効果： 行動値-[Lv*3]								
タブレット	2	2	ｵｰﾄ	至近	自身			
効果： Srエフェクト視界化　シーンLv回								
多重生成	2	3	ｵｰﾄ	至近	自身		ﾘﾐｯﾄ	
効果： 対象Lv+1体化								
EF:成長促進	★							
効果： 植物を成長させる。								
麗しの要望	★							
効果： わかる人にはわかる美しさ								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

---概要---
何かの種のレネゲイドビーイング。
その姿は鉢植えに納まっていることもあれば街を覆うほどの緑の絨毯となっていることもある。
一定の姿を持たぬことからUGNの者は彼の助手を目印に彼を見つけている。
そうしないと鉢植えに生えている雑草にしか見えないからだ。

見た目と一致し彼の本質は雑草。人と共にあり、人の営みを見続けた者。
しかし、同時に忌み嫌われ、名を持ちながら名が無いかのように刈られ続けた者。
幾つもの雑草の儚い命と意思が集まり一つの生命体として成就したのは最近の事だった。

---来歴---
意思を獲得しまず初めにUGNへの接触を図った。
雑草はUGNの戦いを見てきた。それは今の平穏な世界を維持するための活動なのだと脳が無いながら理解した。
彼らの活動を手伝えば私を毟って綿毛を吹き飛ばしてくれた彼女や花の蜜を吸ってくれた彼
種を遠くまで運んでくれた鳥や小便ひっかけてきたクソ犬の日常を守ることに繋がる。彼らに恩返しができる。
彼らの平穏を守れると思ったのだ。

雑草は近くのUGNの門戸を叩いた。「たのもー」声を張り上げる。しかし、いくら待っても誰も応えてはくれない。
痺れを切らし二度三度と戸を叩き直し、そこでやっと気が付いた。
草に発声器官はなかった。戸を叩く腕も無かった。葉の先で戸を叩こうにもサラリと木の板を撫でるだけに終わった。
雑草は絶望した。雑草とはここまで貧弱であったのかと。